学校番号	207

令和８年度　保健体育科

教科	保健体育	科目	保健	単位数	１単位	年次	１年次
使用教科書	現代高等保健体育　（大修館書店）						
副教材等	現代高等保健体育ノート（大修館書店）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・健康・安全について理解しよう。
・健康的な生活行動について学ぶ。
・日常生活で直面する健康課題を知り、その解決方法を考える。
・健康や安全についての社会的な取組や個人での対応について知る。
・身近な健康問題に興味をもってもらう。

２　学習の到達目標

【知識及び技能】
・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】
・健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し、判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	健康を保持増進するための課題や個人生活及び社会生活における健康・安全課題の解決に役立ち、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくための基礎的な事項を理解している	健康を保持増進するための課題や個人生活及び社会生活における健康・安全課題についての解決をめざして、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表している。	健康を保持増進するためには、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることに関心を持ち、個人生活及び社会生活における健康・安全課題について、意欲的に学習に取り組もうとする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	現代社会と健康	01 健康の考え方と成り立ち 1.健康についての多様な考え方 2.健康の成り立ちとその要因 02 私たちの健康のすがた 1.わが国における健康水準は向上 2.わが国における健康問題の変化	a:・我が国の死亡率、受療率、平均寿命など各種の指標や疾病構造の変化を通して国民の健康課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・健康水準、及び疾病構造の変化には、科学技術の発達、及び生活様式や労働形態を含む社会の状況が関わっていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・健康水準の向上、疾病構造の変化に伴い、個人や集団の健康についての考え方も変化していることについて言ったり書いたりしている。 ・免疫、遺伝、生活行動などの主体的要因と自然、経済、文化、保健・医療サービスなどの環境要因が互いに影響し合いながら健康の成立に関わっていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 b:・健康の考え方について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・国民の健康課題について、我が国の健康水準の向上や疾病構造の変化に関するデータや資料に基づいて分析し、生活の質の向上に向けた課題解決の方法をヘルスプロモーションの考え方ウィ踏まえて整理している。 ・健康の考え方について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立ててせつめいしている。 c:健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	定期考査 確認ﾃｽﾄ	定期考査 確認ﾃｽﾄ 提出ﾉｰﾄ 提出ﾌﾟﾘﾝﾄ	提出ﾉｰﾄ 提出ﾌﾟﾘﾝﾄ

1学期	現代社会と健康	03 生活習慣病の予防と回復 1. 生活習慣病とその種類 2. 予防から回復まで 04 がんの原因と予防 1. がんとその種類 2. がんの予防 05 がんの治療と回復 1. がんの治療と緩和ケア 2. がんとともに生きる社会づくり 06 運動と健康 1. 健康からみた運動の意義 2. 健康によい運動のしかた 07 食事と健康 1. 健康的な食生活の意義 2. 健康によい食事のとり方 08. 休養・睡眠と健康 1. 健康からみた休養の意義 2. 健康からみた睡眠の意義	a: ・がん、脳血管疾患、虚血性心疾患、高血圧症、脂質異常症、糖尿病などを適宜取り上げ、これらの生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること。定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・がんは、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・生活習慣病などの予防と回復には、個人の取組みとともに、健康診断やがん検診の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 b:・生活習慣病などの予防と回復について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・生活習慣病などの予防と回復について、習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し、リスクの軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組や社会的な対策を整理している。 ・生活習慣病などの予防と回復について、自他や社会の課題の解決方法と、それに選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 c:生活習慣病とその予防について課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	定期考査 確認ﾃｽﾄ	定期考査 確認ﾃｽﾄ 提出ﾉｰﾄ 提出ﾌﾟﾘﾝﾄ	提出ﾉｰﾄ 提出ﾌﾟﾘﾝﾄ

2学期	現代社会と健康	09 喫煙と健康 1.喫煙の影響 2.喫煙への対策 10 飲酒と健康 1. 飲酒と影響 2. 飲酒への対策 11 薬物乱用と健康 1. 薬物乱用の影響 2. 薬物乱用の要因と対策	a:・喫煙や飲酒は生活習慣病などの要因となり心身の健康を損ねること、喫煙や飲酒による健康課題を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観の育成などの個人への働きかけ、及び法的な整備も含めた社会環境への適切な対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・コカイン、MDMA などの麻薬、覚醒剤、大麻、など、薬物の乱用は心身の健康、社会の安全などに対して深刻な影響を及ぼすことから、決して行ってはならないことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・薬物乱用を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観や規範意識の育成などの個人への働きかけ、及び法的な規制や行政的な対応など社会環境への対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 b:・喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、我が国のこれまでの取組を個人への働きかけと社会環境への対策の面から分析したり、諸外国と比較したりして、防止策を評価している。 ・喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 c:喫煙、飲酒、薬物乱用について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	定期考査 確認ﾃｽﾄ	定期考査 確認ﾃｽﾄ 提出ﾉｰﾄ 提出ﾌﾟﾘﾝﾄ 発表	提出ﾉｰﾄ 提出ﾌﾟﾘﾝﾄ 発表

		12 精神疾患の特徴 1.精神疾患の要因と種類 2.精神保健の今日的課題 13 精神疾患の予防 1.日常生活における精神疾患の予防 2.精神疾患の早期発見・早期治療 14 精神疾患からの回復 1.専門家による支援と治療 2.社会環境の整備	a:・精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、生物的、または社会的な機能の障害などが原因となり、認知、情動、行動などの不調いより、精神活動が不全になった状態であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・うつ病、統合失調症、不安症、摂食障害などは、誰もが罹患しうること、若年で発症する疾患が多いこと、適切な対処により回復し生活の質の向上が可能であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・精神疾患の予防と回復には、身体の健康と同じく、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた生活を実践すること、早期に心身の不調に気付くこと、心身に起こった反応については体ほぐしの運動などのリラクセーションの方法でストレスを緩和することなどが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・心身の不調時には、不安、抑うつ、焦燥、不眠などの精神活動の変化が、通常より強く、持続的に生じること、心身の不調の早期発見と治療や支援の早期の開始によって回復可能性が高まることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・人々が精神疾患について正しく理解するとともに、専門家への相談や早期の治療などを受けやすい社会環境を整えることが重要であること、偏見や差別の対象でないことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 b:・精神疾患の予防と回復につて、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・精神疾患の予防と回復について、習得した知識を基に、心身の健康を保ち、不調に早く気付くために必要な個人の取組や社会的な対策を整理している。 ・精神疾患の予防と回復について自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなど			

			に記述したり、筋道を立てて説明している。 c:精神疾患の予防と回復について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。			
		15 現代の感染症 1.感染症とは 2.さまざまな感染症 16 感染症の予防 1.感染症予防の 3 原則 2.現代の感染症対策 17 性感染症・エイズとその予防 1.性感染症・エイズとは 2.性感染症・エイズの予防	a:・感染症は、時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け、発生や流行に違いが見られること、その際、交通網の発達により短時間で広がりやすくなっていること、また、新たな病原体の出現、感染症に対する社会の意識の変化等によって、腸管出血性大腸菌(0157 等)感染症、結核などの新興感染症や再興感染症の発生や流行が見られることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・感染症のリスクを軽減し予防するには、衛生的な環境の整備や検疫、正しい情報の発信、予防接種の普及など社会的な対策とともに、それらを前提とした個人の取組が必要であること、エイズ及び性感染についても、その原因、及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について、理解したことを言ったり書いたりしている。 b:・現代の感染症とその予防について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・感染症の発生や流行には時代や地域によって違いがみられることについて、事例を通して整理し、感染のリスクを軽減するための個人の取組及び社会的な対策に応用している。 ・現代の感染症とその予防について、自他や社会の課題解決の方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 c:現代の感染症とその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	定期考査	定期考査 提出ﾉｰﾄ 提出ﾌﾟﾘﾝﾄ 発表	提出ﾉｰﾄ 提出ﾌﾟﾘﾝﾄ 発表

		18 健康に関する意思決定･行動選択 1.意思決定･行動選択とそれに影響を与える要因 2.適切な意思決定･行動選択を実現する工夫 19 健康に関する環境づくり 1.健康を保持増進するための環境 2.ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくり	a: 適切な意思決定や行動選択を行う過程について理解し、個人の力だけでなく健康にかかわる環境づくりについて記述、説明することができる。 b: 個人、社会生活や事例などと比較したり分析したりする。また、筋道を立てて説明することができる。 c: 健康を保持増進する時の意思決定や行動選択に関連している要因を調べるなどの学習活動に取り組もうとする。			

3学期	安全な社会生活	01 事故の現状と発生要因 1.事故とその被害 2.事故の発生に関連する要因 02 安全な社会の形成 1.自他の安全を確保する行動 2.安全を確保する社会の取り組み 03 交通における安全 1.交通事故防止のための取り組み 2.交通事故と運転者の責任	a:事故は地域、職場、家庭、学校など様々な場面において発生していること、事故の発生には、周りの状況の把握及び判断、行動の心理などの人的要因、気象状況、施設・設備、車両、法令、制度、情報体制などの環境要因などが関連していることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・事故を防止したり事故の発生に伴う傷害等を軽減したりすることを目指す安全な社会の形成には、交通安全、防災、防犯などを取り上げて、法的な整備などの環境の整備、環境や状況に応じた適切な行動などの個人の取組、及び地域の連携などが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・交通事故を防止するには、自他の生命を尊重するとともに、自分自身の心身の状態や周りの環境、車両の特性などを把握すること、及び個人の適切な行動、交通環境の整備が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 b:・安全な社会づくりについて、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・安全な社会づくりについて、様々な事故や災害の事例から、安全に関する情報を整理し、環境の整備に応用している。 ・交通安全について、習得した知識を基に、事故につながる危険を予測し回避するための自他や社会の取組を評価している。 ・安全な社会づくりについて、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 c:安全な社会づくりについて、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	定期考査 確認ﾃｽﾄ	定期考査 確認ﾃｽﾄ 提出ﾉｰﾄ 提出ﾌﾟﾘﾝﾄ 発表	提出ﾉｰﾄ 提出ﾌﾟﾘﾝﾄ 発表

		04 応急手当の意義とその基本 1.応急手当の意義 2.応急手当の手順 05 日常的な応急手当 1.けがに応じた応急手当 2. 熱中症の応急手当 06 心肺蘇生法 1.心肺蘇生法の意義と方法	a:・適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会をつくるには、一人一人が適切な連絡・通報や運搬も含む応急手当の手順や方法を身に付けるとともに、自ら進んで行う態度が必要であること、さらに、社会の救急体制の整備を進めること、救急体制を適切に利用することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・日常生活で起こる傷害や、熱中症などの疾病の際には、それに応じた体位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の方法や手順があることを、実習を通して理解し、応急手当ができるようにする。 ・心肺停止状態においては、急速に回復の可能性が失われつつあり、速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED(自動体外式除細動器)の使用などが必要であること、及び方法や手順について、実習を通して理解したことを言ったり書いたりし、AED などを用いて心肺蘇生法ができる。 b:・応急手当について、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・応急手当について、習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用している。 ・応急手当について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 c:応急手当について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	定期考査 確認ﾃｽﾄ	定期考査 確認ﾃｽﾄ 提出ﾉｰﾄ 提出ﾌﾟﾘﾝﾄ	提出ﾉｰﾄ 提出ﾌﾟﾘﾝﾄ （実　技）

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度